

# 太宰府の文化財

(417)

## 四王寺山の三十三石仏

### 太宰府市民遺産第15号

大宰府政庁跡の背後に見える山は四王寺山といい、特別史跡大野城跡<sup>※1</sup>が所在するほか、山の名前の由来でもある四王院という寺が古代から存在した祈りの山でもありません。この山中には、200年あまり前に置かれた3体の石の観音像からなる霊場が今もあ



三十三石仏のひとつ(4番札所・千手観音立像)



3番札所・千手観音立像  
(三十三石仏のうち、唯一岩壁に彫られたものです)

り、「四王寺山観音霊場(三十三観音)」や、「四王寺山石仏」などとして長く人々に親しまれてきました。石仏が建立された時期は、石仏の台座などに刻まれた年号より寛政12(1800)年を中心とした年代と考えられます。そのいきさつには、江戸時

代後期の福岡の出来事が関係します。寛政9(1797)年は梅雨時季の大雨で洪水が起り死者や家屋損壊と田畑への被害が、その翌年は、福岡の城下町で起こった大火災で民家1千軒が焼失し、同じ年、四王寺山に提灯の火が燃え移って飾り人形が全焼する火事も起りました。さらに翌年には、天然痘が大流行し、また、豪雨で山笠行事が延期されるなど、多くの災難に見舞われました。このような時代背景のなか、姿を自在に変えて人々を救済する観音菩薩の御

利益にあやかろうと博多の浜口町などの主立った人々が発起して、西国三十三カ所<sup>※2</sup>にならった石仏めぐりの札所を四王寺山一円につくることにしました。そうして、博多の人々に加えて宇美・太宰府などの心ある人々も関わって、この霊場が建立されました。33の石仏のいくつかには、台座に像の建立に関わった人の名や、宰府、桜馬場、国分村、連歌屋といった太宰府の地名も刻まれています。このように昔の太宰府の人々が思いを寄せ、平穩への願いを込めて築かれた三十三石仏を、太宰府の物語として伝え残していきたいと、四王寺山の歴史・文化遺産を学習する市民グループ、四王寺山勉強会が太宰府市民遺産に提案し、昨年夏に景観・市民遺産会議で市民遺産第15号として認定されました。四王寺山勉強会では、三十三石仏の定期的な見守り活動とともに、学習会やウォークを通

して三十三石仏とその物語を伝える育成活動をおこなっていきます。

文化財課 遠藤 茜

- ※1 665年に築かれた日本最古の朝鮮式古代山城
- ※2 近畿地方一円の有名な観音寺からなる札所



四王寺山勉強会活動風景

#### おしらせ

2月29日(土)の「だざいふ景観・市民遺産フェスタ2020」で、「四王寺山の三十三石仏」の一部をめぐるウォークを開催します。詳しくは17ページをご覧ください。